



ふりがな	やなおか	よしこ
氏名	柳岡 克子	
生年月日	1964年11月14日生 (満53歳)	
肩書き：車いすの元気配達人		

○プロフィール

- 仮死状態で生まれ、両手足に重度の障害を持ちながら、2歳半まで病院で過ごす。母親の送り迎えで健常児と同じ幼稚園、小中高校を卒業。自転車に乗れないことで自殺を考えたこともあるが、神戸学院大学薬学部在学中手動式の車の運転免許取得し、寮で自炊して暮らす
- 障害者卓球と出会い、全国身体障害者スポーツ大会で金メダル。パラリンピックをめざし、卓球（クラス6）の世界大会で好成績を残す
- 誰からも慕われ底抜けに明るい。障害者とは思えないリーダーシップの持ち主。行動力があり、様々な団体に所属し、委員として活躍。難しい資格試験にチャレンジし合格。奉仕の精神で生きづらさをかかえる方々へやさしく幅広い相談活動を行う
- 難病の潰瘍性大腸炎になり生死の境をさまよいながらも一命を取り留め人工肛門を装着し、命の大切さを訴える講演活動を始める
- 薬剤師／社会福祉士／ケアマネジャー／ファイナンシャルプランナー／年金アドバイザー／キャリアカウンセラー／中学高校理科教諭
- (公社)日本オストミー協会和歌山県支部長／和歌山県身体障害者連盟評議員／御坊市人権啓発推進協議会副会長／御坊市男女共同参画懇話会長／御坊市人権尊重のまちづくり審議会副会長／日本会議和歌山女性の会副会長／わかやま塾1期生／木国政経塾1期生
- オフィス花まるライフ代表／総合学習センター柳岡塾を経営／慶風高校非常勤講師／南陵高校学校薬剤師

○実績

- 小・中・高校・PTA・社会福祉協議会・民生児童委員協議会・青年会議所・ロータリークラブ・ライオンズクラブ・農業協同組合
障害者団体・老人保健施設・老人福祉施設・企業や自治体の職員研修・老人クラブ・女性団体・倫理法人会・商工会議所など300回
- NHK教育テレビ「きらっといきる」第15回ゲストとして出演後「自殺する人をなくしたい!」と全国に元気を配達している
- 日高新報・紀州新聞に毎月1回随想掲載、活動に関する記事多数掲載 ● 「あがらの和歌山 紀州の女性 第二集」掲載
- 産経新聞・読売新聞・毎日新聞・朝日新聞・フジサンケイビジネスアイ・わかやま新報・ツーワン紀州に活動の記事多数掲載
- NHK厚生文化事業団発行、障害福祉賞50年～受賞者のその後「私の生きてきた道50のものがたり」に掲載
- インターネットテレビドリームナビ「kanban 娘、kanban 男」のコーナーゲスト
- 特定非営利活動法人杖方人権まちづくり協会発行冊子・2016年度版「生きること」に掲載

○その他

ホームページは「柳岡克子」で検索 <http://cocotiyoshiko.mikosi.com/> やなおかよしこ講演サイト <http://www.cocotiyoshiko.com/>
講演内容

- 子どもたちに福祉や障害者のことを分かりやすく伝えてくれる講師をお探しの先生へ
車いすの障害者と接する機会を提供します。親への感謝、他人を思いやる心、あいさつをすること、泣かない強さ、頑張ること、人に親切にすることなど体験を交えながら語ります。不自由を乗り越えたアイデアグッズを子どもたちに手に取ってもらったり、じゃんけんゲームをしながら友達の大切さを学びます。障害があっても頑張っている人がいることを知ってもらうことで勉強するようになります。いじめはよくないことだと気付かせ、命はかけがえのないものだと感じられるようになります。
- 聞き手を退屈させない講師をお探しのご担当者様へ
「ヒヤラリー〜!」と元気よく登場。キャラクターが明るく、「暗い」という障害者に対するイメージが変わります。笑えばなしであつというまの90分を楽しく過ごすことができます。撮影のエピソードも紹介しながらDVDをご覧になると居眠りする間がありません。
- 社員のモチベーションを高めたいとお考えの経営者様へ
企業研修にもってこいの「天の銀行に貯金」の話によって社員が良く働くようになります。コミュニケーションワークによって、社員を「ほめる」ことを体験してもらい、優勝者にはオリジナルグッズのプレゼントがあります。
- 子育てが前向きになるノウハウを聞きたい保護者へ
スタッフとして母も同行し、障害のある子どもを育てた「ゼロからのスタート」という母の考え方・育て方を聞くことができます。考え方をプラスにする方法、夫婦のあり方、子どもの叱り方など学習塾の経験をもとに子育てが前向きになる話をします。
- 人権講演会を成功させたい団体様へ
本当の福祉とは?障害者とのかかわり方、自立・ノーマライゼーションの基本、相手の立場に立った思いやりの心について考えるきっかけになります。自殺を考えた思春期の苦悩を受け止め方を変えることで乗り越えたエピソードを話します。「お涙頂戴」ではなく、聞いた人が楽しく生きるヒントをもらえます。自分も頑張らなければと励まされ、勇気を与えられます。あたりまえの生活に感謝する事、本当の幸せとは何かについて改めて考えさせられ、単なる感動では終わらない心に響く内容が詰まっています。